

報告事項

第1号 平成24年度事業報告および収支計算書について

1. 平成24年度優秀業績の表彰

平成24年度優秀業績については慎重に検討された結果、

大西 健児 氏（東京都立墨東病院感染症科）

「最近注目されている輸入感染症」

（感染症学雑誌 Vol. 85, No. 2. p139-143）

以上、1件に二木賞が授与されることとなった。

中村 茂樹 氏（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座）他2名

「Synergistic stimulation of type I interferons during influenza virus coinfection promotes *Streptococcus pneumoniae* colonization in mice」

（The Journal of Clinical Investigation 2011; 121(9):3657-3665）

上記の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

2. 講演会

平成24年4月25日～26日、長崎ブリックホール、他において第86回学術講演会を河野 茂 会長のもとに開催した。

a 会員の業績研究発表

口演：343題

ポスター：318題

b 会長講演

感染症学の未来を創ろう

司会：泉川病院名誉院長 原 耕平

長崎大学病院 河野 茂

c 招請講演

New Insights into Effective Host Defense in Bacterial Pneumonia

司会：日本感染症学会理事長，東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野 岩本 愛吉

Pulmonary Center, Boston University School of Medicine Joseph P. Mizgerd

13題

d 教育講演

1 新しいフラビウイルスのワクチン開発に向けて 司会：島根大学医学部微生物・免疫学講座（微生物学ユニット） 富岡 治明

長崎大学熱帯医学研究所 森田 公一

2 発熱性好中球減少症，現状と展望 司会：福岡大学医学部腫瘍・血液・感染症内科学 田村 和夫

帝京大学医学部附属溝口病院第4内科 吉田 稔

3 HIV治療の将来像 司会：長崎大学感染病態制御学 森内 浩幸

国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 岡 慎一

4 未来の感染症診断 司会：京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学 一山 智

東邦大学医学部微生物・感染症学講座 館田 一博

5 プリオン感染症への挑戦 司会：済生会熊本病院健診センター 菅 守隆

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座感染分子解析学分野 西田 教行

6 国内発症リケッチア症の現状と課題：多様化する紅斑熱群リケッチア症を中心に

司会：医療法人社団恵愛会大分中村病院 那須 勝

福井大学医学部附属病院感染症膠原病内科 岩崎 博道

7 わが国における輸入真菌症の実態とその対策—困難な症例にどう対応するか 司会：大阪赤十字病院呼吸器内科 網谷 良一

千葉大学真菌学研究所 亀井 克彦

8 非結核性抗酸菌症への挑戦 司会：愛媛大学大学院医学系研究科生体統御内科学 安川 正貴

慶應義塾大学医学部感染制御センター 長谷川直樹

9 感染制御のシステム構築とリスク管理 司会：佐世保同仁会病院 齊藤 厚

金沢医科大学臨床感染症学 飯沼 由嗣

10 鳥とヒトのインフルエンザ克服を目指して 司会：東京都老人医療センター感染症科 稲松 孝思

北海道大学大学院獣医学研究科・人獣共通感染症リサーチセンター 喜田 宏

11 わが国におけるバイオセキュリティ研究の課題 Current Perspectives of Biosecurity Research in Japan

司会：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座感染防御因子解析学（腫瘍） 松山 俊文

長崎大学熱帯医学研究所 竹内 勤

12 多剤耐性菌～未来への展望 司会：滋賀県立成人病センター 笹田 昌孝

大阪大学医学部感染制御部 朝野 和典

13 肺炎ガイドラインにより何がかわるか 司会：杏林大学医学部第一内科 後藤 元

筑波大学附属病院ひたちなか社会連携教育研究センター 寺本 信嗣

e シンポジウム

1 災害と感染症 司会：済生会山形済生病院呼吸器内科 武田 博明

東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学分野 賀来 満夫

1) 震災後の呼吸器感染症発症状況 坂総合病院呼吸器科 高橋 洋

- 2) 感染症サーベイランスの活用～スマトラ災害の経験を生かす～ 防衛医科大学校防衛医学研究センター 加來 浩器
 3) 救急医の立場で考える災害時の感染症対策 慶應義塾大学医学部救急医学教室 佐々木 淳一
 4) 災害における感染症対策 東北大学大学院感染症診療地域連携講座 國島 広之
 追加発言) 日本感染症学会の取り組みと大学・拠点病院との連携・協力 東京医科大学微生物学講座 松本 哲哉
 2 小児・成人の百日咳：現状の問題点とその対策 司会：大阪大学微生物病研究所 大石 和徳
 1) 小児の百日咳 国立病院機構福岡病院 岡田 賢司
 2) 成人百日咳の診断と治療の問題点 川崎医科大学総合内科学1 宮下 修行
 3 乳幼児期に接種するワクチンの現状と展望 司会：川崎医科大学小児科 尾内 一信
 長崎大学感染病態制御学 森内 浩幸
 国立病院機構三重病院小児科 庵原 俊昭
 慶應義塾大学医学部感染制御センター 岩田 敏
 川崎医科大学小児科 中野 貴司
 札幌医科大学医学部小児科 堤 裕幸
 1) 日本における予防接種の新しいトレンド 済生会横浜市東部病院こどもセンター肝臓・消化器部門 乾 あやの
 2) 細菌性髄膜炎を予防するワクチン 司会：奈良県立医科大学感染症センター 三笠 桂一
 3) ポリオワクチン 聖マリアンナ医科大学微生物学/感染制御部 竹村 弘
 4) ロタウイルスワクチン 奈良県立医科大学感染症センター 笠原 敬
 5) わが国のB型肝炎予防における現状と予防 国立病院機構三重病院呼吸器内科 丸山 貴也
 4 研究をしませんか？～若手研究者からのいぎない がん研有明病院感染症科 原田 壮平
 1) 感染症学における研究：日本と米国で考えたこと 同志社女子大学薬学部臨床薬剤学 松元 加奈
 2) 僻地医療での研究 司会：東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門 渡辺 彰
 3) 感染症科医からみた臨床微生物学・耐性菌研究 大分大学医学部総合内科学第二講座 門田 淳一
 4) 薬物体内動態と薬効・毒性の関係解析に基づく臨床研究 倉敷中央病院呼吸器内科 石田 直
 5 (各種) ガイドラインに求められること 長崎大学第二内科 今村 圭文
 1) 市中肺炎 (CAP) ガイドラインに求められること
 2) 院内肺炎 (HAP) 診療ガイドラインに求められること
 3) ガイドラインに求められること：医療・介護関連肺炎
 4) 結核診療ガイドラインに求められるもの 名古屋大学高等研究院/名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科 進藤有一郎
 5) 真菌感染症ガイドライン JR東日本健康推進センター呼吸器科 佐々木結花
 国立がん研究センター中央病院血液腫瘍科・造血幹細胞移植科 福田 隆浩
 6 めざせ感染症専門医 司会：大阪大学感染制御部 朝野 和典
 宮城県立循環器・呼吸器病センター 平湯 洋一
 1) 感染症専門医の一つのroll model 佐賀大学医学部国際医療学講座, 佐賀大学医学部附属病院感染制御部 青木 洋介
 2) 地域における感染症専門医の役割 群馬大学医学部附属病院感染制御部 徳江 豊
 3) 感染症専門医に必要な修練とは 国立国際医療研究センター国際疾病センター/感染症内科 大曲 貴夫
 4) 未来の感染症医のあるべき姿 神戸大学病院感染症内科 岩田健太郎
 7 生体防御機構, 未来への展望 司会：和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山中 昇
 東京医科大学微生物学講座・東京医科大学感染制御部 松本 哲哉
 1) 呼吸器病原体における感染症発症機構の解明 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座 (第二内科) 中村 茂樹
 2) 高齢者肺炎と生体防御機構 川崎医科大学総合内科学1 宮下 修行
 3) 結核菌の抵抗性と宿主感染防御の発現制御 京都大学大学院医学研究科微生物感染症学 河村伊久雄
 4) 上気道感染症の難治化をきたすしたかな細菌の戦略 和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科頭頸部外科 保富 宗城
 8 免疫抑制と感染症 司会：琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学 (第一内科) 藤田 次郎
 産業医科大学呼吸器内科学 迎 寛
 長崎大学病院第二内科 山本 善裕
 1) 抗酸菌感染症 東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科 藤井 毅
 2) HIVと日和見感染症 琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座 (第一内科) 比嘉 太
 3) ウイルス感染症 埼玉医科大学国際医療センター感染症科・感染制御科 光武耕太郎
 4) 臓器移植における感染症 司会：国立感染症研究所真菌症担当部 (生物活性物質部) 宮崎 義継
 9 難治性真菌症への挑戦 長崎大学第二内科 掛屋 弘
 1) 難治性肺真菌症 特にアスペルギルス症を取り巻く問題点について 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座 (第二内科) 泉川 公一
 2) 播種性トリコスポロン症の診断・治療への挑戦—カンジダ症との相違を含め— 大分大学医学部総合内科学第二講座 申間 尚子
 京都大学医学部附属病院感染制御部 高倉 俊二
 3) 臓器移植に伴う真菌症のマネージメントと予後 千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部, 千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野 渡辺 哲
 4) 深在性真菌症のアウトブレイク発生の要因とその対処法 司会：国立感染症研究所感染症情報センター 岡部 信彦
 10 抗インフルエンザ薬と新しいインフルエンザワクチン 東北大学大学院医学系研究科先進感染症予防学寄附講座 山谷 睦雄
 国立感染症研究所感染症情報センター 多屋 馨子
 1) わが国のインフルエンザサーベイランス 杏林大学保健学部看護学科医療科学 小林 治
 2) 抗インフルエンザ療法の考え方 九州大学先端医療イノベーションセンター 池松 秀之
 3) 抗インフルエンザ薬の臨床効果 大阪大学微生物病研究所 大石 和徳
 4) インフルエンザ二次性細菌性肺炎の重症化とワクチンの展望 神奈川警察会けいゆう病院小児科 菅谷 憲夫
 5) これからのインフルエンザ対策, ワクチンと抗インフルエンザ薬 9題
 f Meet the Expert
 1 病院感染対策において医師に期待される役割 司会：東京都立墨東病院感染症科 大西 健児
 長崎大学感染制御教育センター 安岡 彰
 2 乳幼児におけるフォーカス不明の発熱に対するマネージメントの変遷

	司会：(地方独立行政法人福岡市立病院機構) 福岡市立こども病院・感染症センター小児感染症科	青木 知信
	国立成育医療研究センター感染症科	宮入 烈
3	尿路性器感染症～泌尿器科医の視点から考える～	司会：神戸大学名誉教授 守殿 貞夫
	神戸大学大学院医学研究科外科系講座腎泌尿器科学分野	田中 一志
4	自然リンパ球による感染防御～感染免疫におけるNKT細胞の役割とワクチンへの応用の可能性～	司会：東邦大学医学部病院病理学講座 渋谷 和俊
	国立感染症研究所生物活性物質部第三室	金城 雄樹
5	造血器疾患患者における真菌感染症の実態とその治療戦略～前向き疫学研究JASPER-HESTIAの結果も含めて～	司会：国立感染症研究所真菌症担当部生物活性物質部 宮崎 義嗣
	虎の門病院臨床感染症部・臨床感染症科	荒岡 秀樹
6	外科的感染症とその制御法	司会：兵庫医科大学救急・災害医学講座 小谷 穰治
	藤田保健衛生大学医学部救命救急医学講座	武山 直志
7	インフルエンザと関連する肺炎の病態とマネージメントについて	司会：国立感染症研究所感染症情報センター 谷口 清州
	大阪大学大学院医学系研究科感染制御学	関 雅文
8	非結核性抗酸菌症—菌ゲノム解析からわかったこと	司会：福井大学医学部長・内科学 (I) 上田 孝典
	東北大学病院呼吸器内科	菊地 利明
9	HIV感染症の現状と将来の展望	司会：帝京大学医学部内科学講座 秋山 暢
	国立国際医療研究センター	潟永 博之
g	感染症セミナー	1 題
	司会：愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学	三嶋 廣繁
	虎の門病院臨床感染症部・臨床感染症科	荒岡 秀樹
1)	症例提示	愛知医科大学病院感染制御部 山岸 由佳
2)	解説	岐阜大学大学院医学系研究科病原体制御学分野 大楠 清文
3)	症例提示	虎の門病院臨床感染症部・臨床感染症科 荒岡 秀樹
4)	解説	虎の門病院臨床感染症部 馬場 勝
	愛知学院大学薬学部微生物学講座	河村 好章
h	モーニングセミナー	1 題
1	変わりゆくHIV臨床～管理可能な慢性疾患から予防の可能性まで～	司会：熊本大学エイズ学研究センター 松下 修三
	横浜市立市民病院感染症内科	立川 夏夫
i	ランチョンセミナー	1 5 題
1	血液疾患の深在性真菌症の治療～Empiric therapyとPreemptive therapy～	司会：福岡大学医学部腫瘍・血液・感染症内科 田村 和夫
	帝京大学医学部附属溝口病院第四内科	吉田 稔
2	超高齢社会における肺炎球菌感染症の現状とワクチンの展開	司会：福井大学医学部長・内科学 (I) 上田 孝典
	東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門	渡辺 彰
3	HIV感染症の治療ガイドラインUpdate	司会：がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 今村 顕史
1)	最新抗HIV治療ガイドラインの解説	東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科 鯉淵 智彦
2)	ガイドラインに基づいた治療の実際	国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 潟永 博之
4	Sequence based Surveillance and Detection of Hospital Acquired Infections—次世代院内感染サーベイランスシステム—	司会：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科細菌制御学分野 中川 一路
	Pathogenica, Inc.	Yemi Adesokan
	バイオインフォマテクス	Alex Rolef
5	Management of MRSA in the Critically (特別): Focus on Pneumonia	司会：長崎大学病院 河野 茂
	University of Miami, Miller School of Medicine	Daniel H. Kett
6	感染症専門医のためのロタウイルス感染症と予防ワクチン	司会：愛媛大学大学院医学部系研究科生体統御内科学 安川 正貴
1)	ロタウイルス感染症の臨床と疫学	大阪府立急性期・総合医療センター小児科 田尻 仁
2)	本邦における予防ワクチン導入を踏まえて	大阪労災病院小児科 川村 尚久
7	インフルエンザ診療の進歩	司会：国立病院機構九州医療センター名誉院長/博多駅前かしわざりクリニック 柏木 征三郎
	九州大学先端医療イノベーションセンター	池松 秀之
8	プロバイオティクスを考える—腸内細菌による感染制御—	司会：医療法人社団恵愛会大分中村病院 那須 勝
	東北大学大学院感染症診療地域連携講座	國島 広之
9	咳から考える新しい感染症治療～「改訂」咳嗽ガイドラインを含めて～	司会：倉敷第一病院呼吸器センター 松島 敏春
	川崎医科大学総合内科学I	宮下 修行
10	アスペルギルスの薬剤耐性とその治療戦略を考える	司会：埼玉医科大学感染症科・感染制御科 前崎 繁文
	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座 (第二内科)	泉川 公一
11	成人百日咳の謎	司会：国立病院機構福岡病院 岡田 賢司
	順天堂大学医学部感染制御科学・細菌学・総合診療科学	菊池 賢
12	HIV感染者で見られる日和見感染症～日常診療でHIV感染を疑うポイント～	司会：がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 味澤 篤
	独立行政法人国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター	照屋 勝治
13	インフルエンザ対策～ワクチンと抗ウイルス薬～	司会：滋賀県立成人病センター 笹田 昌孝
	神奈川県警友会けいゆう病院小児科慶応義塾大学医学部客員教授	菅谷 憲夫
14	気道感染における防御機構とその制御	司会：杏林大学医学部 後藤 元
	産業医科大学呼吸器内科学	迎 寛
15	感染症biomarkerとしてのProcalcitonin	司会：大分大学医学部附属病院呼吸器内科 門田 淳一
	慶應義塾大学医学部救急医学	藤島清太郎

j	イブニングセミナー			9題
1		司会：独立行政法人国立病院機構東京病院呼吸器疾患センター	永井 英明	
1)	ワクチン制度と今後の期待	国立感染症研究所感染症情報センター	多屋 馨子	
2)	結合型肺炎球菌ワクチンが拓く新時代	大阪大学微生物病研究所感染症国際研究センター	大石 和徳	
2	MRSA感染症の最近の話題	司会：北里大学感染制御研究機構客員教授	砂川 慶介	
		昭和大学医学部臨床感染症学講座	二木 芳人	
3	多剤耐性菌をめぐる最近の話題	司会：佐世保同仁会病院	齊藤 厚	
		東京医科大学微生物学講座、東京医科大学病院感染制御部	松本 哲哉	
4	—高齢者肺炎における新たな概念—NHCAPの治療を考える	司会：総務省人事・恩給局顧問	島田 馨	
1)	NHCAP診療ガイドラインの方向性	大阪大学医学部附属病院感染制御部	朝野 和典	
2)	プライマリケアでの治療の実際	中浜医院	中浜 力	
5	変貌する感染症・耐久菌：感受性サーベイランスが示すアラート	司会：東京慈恵医科大学	柴 孝也	
		東邦大学医学部微生物・感染症学講座	館田 一博	
6	HIV感染症の長期管理～総合診療医として～	司会：東京慈恵会医科大学感染制御部	吉田 正樹	
		順天堂大学医学部総合診療科	内藤 俊夫	
7	感染制御における迅速検査の役割 TOF—MSと遺伝子検査を中心に	司会：京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学	一山 智	
		長崎大学検査部	柳原 克紀	
8	感染症性DICの病態と治療	司会：兵庫医科大学感染制御学	竹末 芳生	
		名古屋大学大学院医学研究科救急・集中治療医学分野	松田 直之	
9	血液領域の深在性真菌症におけるキャンディン系抗真菌薬の位置づけ	司会：地方独立行政法人大阪府立成人病センター	正岡 徹	
		福岡大学医学部腫瘍・血液・感染症内科学	高田 徹	
k	ICD講習会			1題
	医療安全と感染制御	司会：宮崎大学医学部医学科内科学講座免疫感染病態学分野	岡山 昭彦	
1)	医療安全と感染制御	山形大学医学部附属病院検査部	森兼 啓太	
2)	「感染対策と医療安全」 感染対策の立場から	東京医科大学医療安全管理学	相馬 孝博	
3)	リスクコミュニケーション メディア対応	長崎大学病院感染制御教育センター	栗原慎太郎	
4)	最近の施策の動向について	防衛医学研究センター	加來 浩器	
l	健康セミナー	厚生労働省九州厚生局医事課	入江 芙美	1題
		司会：長崎大学病院	河野 茂	
			金井 清一	
m	第60回日本化学療法学会学術集会とのJointプログラム			4題
	特別講演			
1	A new pathogenic Aspergillus that causes invasive disease refractory to antifungal therapy	司会：長崎大学病院	河野 茂	
		National Institutes of Health, Bethesda Maryland, USA	K. J. Kwon-Chung	
2	生態学的感染症理解—適応・進化・共生の視点から	司会：長崎大学熱帯医学研究所	竹内 勤	
		長崎大学熱帯医学研究所	山本 太郎	
3	探究する心	司会：長崎大学	片峰 茂	
		ボストン大学名誉教授	下村 脩	
4	インフルエンザ	司会：産業医科大学病院	松本 哲朗	
		東京大学医科学研究所感染・免疫部門ウイルス感染分野	河岡 義裕	
	教育講演			2題
1	周術期感染対策の現状と展望	司会：東京医療保健大学/大学院	品川 長夫	
		広島大学病院感染症科	大毛 宏喜	
2	尿路感染症のガイドライン—「JAID/JSC感染症治療ガイド2011」を中心に—	司会：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学	公文 裕巳	
		兵庫医科大学医学部泌尿器科	山本 新吾	
	シンポジウム			5題
1	感染性心内膜炎の治療ストラテジー	司会：杏林大学総合医療学教室感染症科	河合 伸	
		岡山大学病院中央検査部	草野 展周	
1)	感染性心内膜炎に対する外科治療	国立循環器病研究センター心臓血管外科	小林順二郎	
2)	僧帽弁活動期感染性心内膜炎に対する弁形成術の役割	長崎大学病院心臓血管外科	江石 清行	
3)	感染性心内膜炎の抗菌薬治療と課題	埼玉医科大学国際医療センター感染症科・感染制御科	光武耕太郎	
4)	感染性心内膜炎の起因菌の特徴と病原性	順天堂大学医学部感染制御科学・細菌学・総合診療科学	菊池 賢	
2	グローバル時代の感染症	司会：長崎大学熱帯医学研究所免疫遺伝学分野	平山 謙二	
		熊本大学大学院生命科学研究所先端生命医療科学部門感染・免疫学講座	原田 信志	
1)	多剤耐性結核の現状と改良BCGワクチン開発	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター臨床研究部、同 感染症センター	松本 智成	
2)	マラリア原虫のアキレス腱を標的とするSE36マラリアワクチン開発	大阪大学微生物病研究所分子原虫学分野	堀井 俊宏	
3)	ヘリコバクター・ピロリ感染症と毒素病態学的研究アプローチ	長崎大学熱帯医学研究所細菌学分野	平山 壽哉	
4)	耐性HIVの現状とワクチン開発	熊本大学エイズ学研究センター	松下 修三	
5)	HIV in the Era of Globalization : Experience from Northern Thailand	Division of Infectious Diseases, Department of Medicine,		

- 3 多剤耐性菌への挑戦
- 司会：京都薬科大学微生物・感染制御学分野 後藤 直正
小倉記念病院感染管理部 宮崎 博章
- 1) MRSA 北里大学抗感染症薬研究センター 花木 秀明
2) ESBL産生菌の変遷と最新知見 東邦大学医学部微生物・感染症学講座 石井 良和
3) 薬剤耐性真菌—基礎研究の最前線と臨床への応用— 長崎大学病院第二内科 宮崎 泰可
4) 地域における薬剤感受性動向調査について 富山化学工業株式会社総合研究所第三研究部 野村 伸彦
- 4 院内感染対策の最前線
- 司会：東邦大学医療センター大橋病院外科 草地 信也
- 1) 内科領域における院内感染対策の課題と展望 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学分野 賀来 満夫
2) 救命救急センターにおける感染制御 大分大学医学部附属病院感染制御部 平松 和史
3) ウイルスの院内感染制御 長崎大学病院救命救急センター 田崎 修
4) *Clostridium difficile*関連腸炎の予防と対策 愛知医科大学病院感染制御部 山岸 由佳
5) 耐性菌アウトブレイクへの対応；多剤耐性アシネトバクターの施設内感染事例が教えてくれた事 東北大学大学院感染症診療地域連携講座 國島 広之
- 5 徹底比較：サンフォード熱病と感染症治療ポケットガイド
- 司会：東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科 清田 浩
奈良県立医科大学医学部感染症センター 三笠 桂一
奈良県立医科大学医学部感染症センター 笠原 敬
- 1) 肺炎・気道感染症 独立行政法人国立国際医療研究センター国際疾病センター・感染症内科 大曲 貴夫
2) 発熱性好中球減少症 敗血症 帝京大学医学部附属病院感染制御部、帝京大学医学部内科学講座（感染症） 松永 直久
3) 感染性心内膜炎・細菌性髄膜炎 市民公開講座 1題
- いざというとき（災害時）の感染症対策：日頃からの準備，基礎知識の習得
- 司会：長崎大学病院 河野 茂
産業医科大学病院 松本 哲朗
- 1) 「もし」が「ホント」になったとき，私たちにできること～福島第一原発医療支援の経験をとおして～ 産業医科大学病院感染制御部 鈴木 克典
2) その時，長崎は～東日本大震災，過去の長崎での災害，そして，これからに備えて～ 長崎大学病院臨床研究センター 福島 千鶴
3) いざという時に備えて～ふだんから知っておきたい感染症予防～ 長崎大学病院感染制御教育センター 塚本 美鈴

3. 雑誌刊行

1) 感染症学雑誌

86巻1号より逐次刊行した。

地方会学術集会プログラムを掲載した。

学会誌「日本伝染病学会雑誌（1926-1958）」、「日本伝染病学会雑誌（1958-1970）」、「感染症学雑誌（1970-現在）」すべてが電子化されHPに掲載した。

二重投稿・盗用の罰則規定を制定した。

2) Journal of Infection and Chemotherapy

Vol.18, No.1より逐次刊行した。

Vol.18, No.4より1号当りの頁数を増とした。

インパクトファクター：1.796

二重投稿・盗用の罰則規定を制定した。

4. 地方会

- ・第61回東日本地方会学術集会は、平成24年10月10日～12日の3日間、館田一博会長のもとで第59回日本化学療法学会東日本支部総会（金子明寛会長）と合同で東京都・ホテル日航東京で行われた。

特別講演 3題、招請講演 3題、教育講演 10題、シンポジウム 26題、新薬シンポジウム 1題、教育セミナー 34題
感染症セミナー 1題、ICD講習会 1題

一般演題 157題

参加人数 1614名

- ・第55回中日本地方会学術集会は、網谷良一会長のもとで、第82回西日本地方会学術集会は、門田淳一会長のもとで平成24年11月5日～7日の3日間、第60回日本化学療法学会西日本支部総会（山中昇会長）と共同開催で福岡市・アクロス福岡で行われた。

特別講演 3題、教育講演 8題、シンポジウム 11題、新薬シンポジウム 1題、特別報告 1題、特別企画 1題、

Meet the Expert 4題、ランチョンセミナー 12題、イブニングセミナー 3題、感染症セミナー 1題、ICD講習会 1題

一般演題（中日本） 101題

一般演題（西日本） 116題

参加人数 1227名

5. 院内感染対策講習会

1) 講習場所、期間及び人員

①. 院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

有楽町朝日ホール	(医 師)	平成25年 1月10日、11日	9 1 名
	(看護師)	平成25年 1月10日、11日	1 9 9 名
	(薬剤師)	平成25年 1月10日、11日	1 0 5 名
	(臨床検査技師)	平成25年 1月10日、11日	1 0 1 名
神戸国際会議場メインホール	(医 師)	平成25年 1月28日、29日	8 3 名
	(看護師)	平成25年 1月28日、29日	1 8 8 名
	(薬剤師)	平成25年 1月28日、29日	9 1 名
	(臨床検査技師)	平成25年 1月28日、29日	8 4 名

②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

フォレスト仙台	(医 師)	平成24年11月26日、27日	3 1 名
	(看護師)	平成24年11月26日、27日	1 0 0 名
	(薬剤師)	平成24年11月26日、27日	3 4 名
	(臨床検査技師)	平成24年11月26日、27日	3 1 名
有楽町朝日ホール	(医 師)	平成25年 1月 8日、 9日	6 6 名
	(看護師)	平成25年 1月 8日、 9日	2 0 0 名
	(薬剤師)	平成25年 1月 8日、 9日	7 7 名
	(臨床検査技師)	平成25年 1月 8日、 9日	8 2 名
奈良県文化会館国際ホール	(医 師)	平成24年11月21日、22日	6 1 名
	(看護師)	平成24年11月21日、22日	1 8 0 名
	(薬剤師)	平成24年11月21日、22日	7 5 名
	(臨床検査技師)	平成24年11月21日、22日	6 7 名
九州大学医学部百年講堂	(医 師)	平成25年 1月24日、25日	4 4 名
	(看護師)	平成25年 1月24日、25日	1 2 4 名
	(薬剤師)	平成25年 1月24日、25日	4 4 名
	(臨床検査技師)	平成25年 1月24日、25日	4 3 名

③. 高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

はまぎんホールヴィアマーレ		平成25年 2月14日、15日	1 5 5 名
		合 計	2 3 5 6 名

2) 講習内容

1. ①院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

院内感染対策のシステム化・連携	4 5 分
院内感染関連微生物（新しい話題の感染症の種類と特徴を含む）	4 5 分
医療機関における感染制御の基本	4 5 分
院内ラウンドの実際とそのポイント	4 5 分
抗菌薬および消毒薬の使用と管理	4 5 分
医療器材関連感染	4 5 分
呼吸器感染対策	4 5 分
周術期感染対策	4 5 分
血液媒介感染対策・職業感染対策	4 5 分
アウトブレイク対応の実際	4 5 分
院内感染対策に関連する環境整備	4 5 分
地域における感染対策のネットワーク構築	4 5 分
院内・施設内感染関連法令	4 0 分
パネルディスカッション	8 0 分

2. ②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

院内感染対策のシステム化・連携	4 5 分
院内感染関連微生物（新しい話題の感染症の種類と特徴を含む）	4 5 分
医療機関における感染制御	4 5 分
高齢者介護施設における感染制御	4 5 分
洗浄・消毒・滅菌の基本と実際	4 5 分
抗菌薬の適正使用（薬剤の選択と投与計画）	4 5 分
医療器材関連感染	4 5 分

呼吸器感染対策	45分
血液媒介感染対策・職業感染対策	45分
周術期感染対策	45分
院内感染対策に関連する環境整備	45分
アウトブレイク対応の実際	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
パネルディスカッション	80分

3. ③高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

大規模施設における感染対策システムの構築	45分
感染症サーベイランス・微生物モニタリングの実際	45分
院内ラウンドの実際とそのポイント	45分
抗菌薬および消毒薬の使用と管理	45分
新興感染症への対応（パンデミックインフルエンザ対策を含め）	45分
大規模流行を起こす感染症への対応（アウトブレイク対応）	45分
感染対策に関連する環境整備	45分
感染対策教育・研修システムの構築と人材育成	45分
リスクコミュニケーション・メディア対応	45分
感染対策における情報入手と活用法	45分
地域における感染対策ネットワーク構築	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
感染対策活動事例の紹介	45分
パネルディスカッション	80分

6. 施設内感染対策相談窓口事業

平成24年 3月1日～平成24年 3月31日	質問件数	1件
平成24年 4月1日～平成25年 2月28日	質問件数	19件
e-consultation		
平成24年 4月1日～平成25年 2月28日	質問件数	4件

7. 感染症専門医

1) 感染症専門医試験合格者 57名

(敬称略)

青柳 哲史	上松 一永	池邊 太一	伊藤 明広	乾 啓洋	氏家 無限	牛木 淳人
江里口芳裕	大毛 宏喜	小川 拓	小野 昭浩	梶原 俊毅	勝田 友博	加藤 英明
加藤 誠章	川波 敏則	河野 真二	工藤豊一郎	古賀 道子	小金丸 博	小林泰一郎
小林 良樹	古宮 伸洋	齊藤 誠司	佐藤 留美	清水 少一	志馬 伸朗	下田 慎治
末盛浩一郎	杉本 貴昭	鈴木 博貴	田代 将人	谷合 啓明	谷口 晴記	樽本 憲人
塚越 正章	露口 一成	土井 朝子	中川 智代	長崎 彩	仲松 正司	長森 恒久
西島 健	根本 隆章	福山 一	藤田 浩平	松田 俊明	松本 聡	村上 雄一
村田 研吾	森 伸晃	山岸 由佳	山田 友子	横田 恭子	吉村 幸浩	吉本 昭
若竹 春明						

2) 更新者 172名

3) 指導医 45名

4) 感染症専門医認定研修施設 195施設 (ホームページ参照)

5) 専門医育成経過措置としての連携研修施設	研修に3年を要する施設	58施設 (ホームページ参照)
	研修に4年を要する施設	41施設 (ホームページ参照)

6) 専門医研修カリキュラムの改正 (追記事項下線)

1. 総論

1.7 院内感染

1.7.5 職業感染とその対応

1.7.5.1 個人防護具

1.7.5.2 血液体液暴露対策

1.7.5.3 医療従事者へのワクチン接種

1.7.5.4 職員の健康管理

1.8 医療安全

1.8.1 医療安全の定義

1.8.2 ヒューマンファクターズ

1.8.3 カンファレンス

1.8.4 リスク・コミュニケーション

1.8.5 リスクの認知

1.8.6 チーム医療

1.8.7 RCA (Root Cause Analysis: 事例要因分析)

1.9 医療倫理

1.9.1 医療倫理の定義

1.9.2 患者の権利

1.9.3 インフォームド・コンセント

1.9.4 守秘義務

1.9.5 患者隔離

1.9.6 臨床研究

8. インフルエンザに関連して以下を行った。
 - ・ 提言「インフルエンザ病院内感染対策の考え方について（高齢者施設を含めて）」（ホームページ掲載）。
 - ・ 第61回東日本地方会において緊急討論「“新型”インフルエンザから以下に国民を守るか～新型特措法の問題を含めて～」を行った（要約をホームページ掲載）。
 - ・ 日本記者クラブにおいて「新型インフルエンザ等特措法とインフルエンザ」を行った。
 - ・ 新型インフルエンザの診療に関する研修を日本呼吸器学会と共催して行った（主催：厚生労働省）。
 - ・ 日本記者クラブにおいて「インフルエンザ」を行った。
9. 「風疹の流行について」ホームページに掲載した。
10. ゲンタマイシンに関する使用実態調査に協力した。
11. 予防接種キャンペーンに協力した。
12. 予防接種推進専門協議会から厚生労働大臣へ「予防接種に関する評価・検討組織に関する提言」、「A型肝炎ワクチンの小児適応拡大に関する早期承認の要望書」、「狂犬病ワクチン不足への対応について」を提出した。
13. ICD制度協議会 新規認定者 182名 更新者 350名
14. 日本化学療法学会と合同で「JAID/JSC感染症治療ガイド2011」を刊行した。

庶務報告

1. 会員数 正会員：10,909名 賛助会員：19件 平成25年2月28日現在
除名については該当者無し
2. 一般社団法人認可申請を行い認可を受けた。平成25年3月1日登記完了。
3. 第86回日本感染症学会総会は平成24年4月25日、長崎ブリックホールにおいて行った。臨時総会は平成24年10月12日、ホテル日航東京において行った。
4. 平成24年度評議員会は平成24年4月25日、長崎ブリックホールにおいて行った。臨時評議員会は平成24年10月12日、ホテル日航東京において行った。
5. 理事会は5回行った。
6. 常任理事会は1回行った。
7. 感染症学雑誌編集委員会は6回行った。
Journal of Infection and Chemotherapy編集委員会は6回行った。
8. 学会賞選考委員会は1回行った。
9. 専門医審議会は1回行った。専門医試験委員会は7回行った。専門医カリキュラム委員会は1回行った。
専門医テキスト委員会は1回行った。
10. ワクチン委員会は1回行った。
11. 感染症セミナーWGは3回行った。
12. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会は3回行った。
13. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会は6回行った。
14. 四学会理事長懇談会は1回行った。
15. 経理事務打合会は1回行った。

収支決算書について（別表4）

第2号 平成25年度事業計画および収支予算書について

事業計画

1. 感染症に対する調査および研究ならびにこれらの援助、今年度の優秀業績の表彰
2. 感染症に関する学術講演の開催
 - ・平成25年6月5日、6日の両日、横浜市・パシフィコ横浜において、第87回日本感染症学会学術講演会（会長・岩本愛吉）開催予定。
 - ・平成25年10月30日～11月1日の3日間、東京都・東京ドームホテルにおいて、第62回東日本地方会学術集会（会長・松本哲哉）開催予定。
 - ・平成25年11月6日～8日の3日間、大阪市・グランキューブ大阪において、第56回中日本地方会学術集会（会長・鈴木克洋）および第83回西日本地方会学術集会（会長・岡山昭彦）開催予定
3. 感染症に関する学術図書の刊行
 - 感染症学雑誌 刊行回数 隔月A4（6回） 部数：11,200部 頁数約150頁
 - 総会プログラム講演抄録集 部数：12,000部
 - Journal of Infection and Chemotherapy 刊行回数 隔月A4国際版（6回）
 - オンラインジャーナル 頁数約140頁
 - 地方会学術集会プログラムを感染症学雑誌に掲載
5. 専門医制度
 - ・第16回感染症専門医資格認定試験を9月8日（日）に実施する。
 - ・認定指導医、認定研修施設、「育成経過措置」としての連携研修施設・暫定指導医を募集する。
 - ・指導医講習会を第87回日本感染症学会学術講演会、第62回東日本地方会学術集会、第56回中日本地方会学術集会、第83回西日本地方会学術集会に於いて実施する。
 - ・「感染症専門医テキスト」サイトライセンス版を発刊する。
 - ・感染症専門医を目指す若手医師を対象としたサマースクールを開催する。
6. JAID/JSC感染症治療ガイド2013（ポケット判）を日本化学療法学会と合同で刊行予定。
7. MRSA感染症の治療ガイドラインを日本化学療法学会と合同で刊行予定。
8. 利益相反細則の施行（HP参照）
9. 厚生労働省委託事業（一般競争入札予定）
 - ・院内感染対策講習会
 - ・施設内感染対策相談窓口を設置
10. ICD制度協議会に加盟する（継続）。
11. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス事業に参加する（継続）。
12. 日本微生物学連盟に加盟する（継続）。
13. 予防接種推進協議会に加盟する（継続）。
14. 関係学術団体との連絡協議
 - 日本医学会に評議員および連絡員を派遣し、医学発展のために各種問題につき相互に連絡強調する。

収支予算書について（別表5）

審議事項

第1号議案 平成24年度貸借対照表、正味財産増減計算書および財産目録の承認について
平成24年度貸借対照表は別表1、正味財産増減計算書は別表2、財産目録は別表3の通りである。

第2号議案 理事及び監事の選任について

理事候補者

青木 知信 (福岡市立こども病院・感染症センター 副院長)	重任
一山 智 (京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学 教授)	重任
岩田 敏 (慶應義塾大学医学部感染制御センター 教授)	新任
上田 孝典 (福井大学医学部医学科病態制御医学講座内科学(1) 教授)	重任
大石 和徳 (国立感染症研究所感染症情報センター センター長)	新任
賀来 満夫 (東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 教授)	新任
門田 淳一 (大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座 教授)	重任
神谷 茂 (杏林大学医学部感染症学 教授)	重任
亀井 克彦 (千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野 教授)	新任
草地 信也 (東邦大学医療センター大橋病院外科・がんセンター 教授)	新任
鈴木 幹三 (名古屋市千種保健所 所長)	新任
堤 裕幸 (札幌医科大学附属病院小児科 教授)	重任
二木 芳人 (昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門 教授)	重任
安川 正貴 (愛媛大学大学院医学研究科生体統御内科学教授)	重任
吉田 正樹 (東京慈恵会医科大学感染制御科 准教授)	新任

監事候補者

青木 信樹 (信楽園病院研究部 部長)	重任
笹田 昌孝 (滋賀県立成人病センター 総長・病院長)	重任
藤田 次郎 (琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学 教授)	新任

第3号議案 次期会長承認について

愛媛大学大学院医学系研究科生体統御内科学 安川 正貴 教授

第4号議案 次々期会長候補者選任について

第5号議案 次々期総会開催地および会期について

第6号議案 名誉会員および功労会員承認について

名誉会員推薦：炭山 嘉伸 先生

功労会員推薦：該当者無し

その他

一般社団法人日本感染症学会定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、一般社団法人日本感染症学会 (The Japanese Association for Infectious Diseases) と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都文京区に置く。

(地方会)

第3条 この法人は理事会の議決を経て必要の地に地方会を置くことができる。

第2章 目的及び事業

(目的)

第4条 この法人は、感染症および関連諸分野の学術研究、調査等を行い、感染症学を発展させ、感染症に関する情報・知識の発信・普及に務め、感染症の予防・対策の実行・診療を行う専門人材育成を通して社会に貢献し、国民の健康増進に寄与することを目的とする。

(事業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 感染症に関する学術研究、調査、対策事業、並びにその援助。
- 2 感染症に関する学術講演会の開催。
- 3 感染症に関する学会誌、学術図書等の刊行。
- 4 感染症に関する情報の社会への発信、普及活動。
- 5 国内外の関連学術団体との連携協調。
- 6 感染症に関する教育・研修。
- 7 専門医および認定研修施設の認定。
- 8 感染症に顕著な業績をあげたものに対する表彰。
- 9 その他前項の目的を達成するために必要な事業。

2 前項各号の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

第3章 会員

(法人の構成員)

第6条 この法人に次の会員を置く。

- 1 正会員 この法人の目的に賛同し、入会した個人。
- 2 賛助会員 この法人の目的に賛同し、この法人の事業を援助するために入会した個人、または団体。
- 3 名誉会員 感染症学に関して特に顕著な功績を挙げた者で、理事会で推薦を受け、総会の決議をもって決定された個人。
- 4 功労会員 この法人の事業に顕著な功績を挙げた者で、理事会で推薦を受け、総会の決議をもって決定された個人。
- 5 団体会員 この法人の目的に賛同し、入会した団体。

2 前項の会員のうち正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という）上の社員とする。

(会員の資格の取得)

第7条 この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより入会申込をし、理事長の承認を受けなければならない。

(会費の負担)

第8条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員は総会において別に定める額を、会員になる時及び毎年支払う義務を負う。

- 2 名誉会員・功労会員は、前項の会費を支払うことを要しない。
- 3 第1項に基づき支払われた会費は、いかなる事由があっても返還しない。

(任意退会)

第9条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

第10条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- 1 この法人の定款またはその他の規則に反する行為をしたとき
- 2 この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- 3 その他除名すべき正当な事由があるとき。

2 前項の規定により会員を除名しようとするときは、理事会の議決を経て当該会員に除名の決議を行う総会の一週間前までに通知するとともに、総会において当該会員に弁明の機会を与える。

(会員資格の喪失)

第11条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- 1 第8条の支払い義務を2年以上履行しなかったとき。
- 2 総正会員が同意したとき。
- 3 当該会員が死亡し、若しくは失踪宣言を受け、又は団体会員が解散したとき。

第4章 総会

(構成)

第12条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

- 2 前項の総会をもって法人法上の社員総会とする。

(権限)

第13条 総会は、次の事項について決議する。

- 1 会員の除名
- 2 理事及び監事の選任又は解任
- 3 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
- 4 定款の変更
- 5 解散及び残余財産の処分
- 6 その他法令又はこの定款により定められた事項

(開催)

第14条 総会は、定時総会と臨時総会とする。

- 2 定時総会は、毎年一回事業終了後3カ月以内に開催する。
- 3 臨時総会は、理事長が必要と認めるときに開催することができる。

(招集)

第15条 総会は、法令の別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、理事長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。
- 3 総会を招集するときは、書面をもって（電磁的方法を含む）、開催日の1週間前までに通知を発しなければならない。

(議長)

第16条 定時総会の議長は、総会において会員の中から選出する。

- 2 臨時総会の議長は、理事長が行う。

(議決権)

第17条 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第18条 総会の決議は、総正会員の議決権の3分の1を有する正会員が出席し、出席した当該会員の議決権の過半数をもって行う。ただし、あらかじめ書面または電磁的方法をもって他の会員を代理人として議決権行使の委任を表明した者及び議決権行使の意思を表明した者は、出席者とみなす。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
 - 1 会員の除名
 - 2 理事及び監事の解任
 - 3 定款の変更
 - 4 解散
 - 5 その他法令で定められた事項
- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第20条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

第19条 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長、理事長、出席した正会員の中から選出された1名は、前項の議事録に記名押印する。

第5章 役員

(役員の設定)

第20条 この法人に、次の役員を置く

- 1 理事 3名以上15名以内
- 2 監事 3名以内
- 3 理事のうち1名を理事長、理事長以外の理事のうち3名を常務理事とする。
- 4 第2項の理事長をもって法人法上の代表理事とし、常務理事をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第21条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

- 2 理事長および常務理事は理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 この法人の理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事現在数の3分の1を超えて含まれることにはならない。
- 4 この法人の監事には、この法人の理事（親族その他特殊な関係がある者を含む。）及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があってはならない。

(理事の職務及び権限)

第22条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務理事は理事長を補佐し、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長に事故あるとき、または理事長が欠けたときは、他の理事がその業務にかかる職務を代行する。
- 4 理事長及び常務理事は、毎事業年度毎に4ヵ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

- 第23条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

- 第24条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとし、再任を妨げない。ただし、連続2期を超えることはできない。
- 2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
 - 3 理事又は監事は、第20条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

- 第25条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(役員報酬等)

- 第26条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、会務のために要した費用は、支弁することができる。

第6章 理事会

(構成)

- 第27条 この法人に、理事会を置く。
- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

- 第28条 理事会は、次の職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定
 - (2) 理事の職務の執行の監督
 - (3) 理事長及び常務理事の選定及び解職

(招集等)

- 第29条 理事会は、理事長が招集する。
- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故あるときは、各理事が理事会を招集する。
 - 3 理事会の議長は理事長がこれにあたる。

(決議)

- 第30条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項に規定にかかわらず、法人第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

- 第31条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第7章 評議員および評議員会

(評議員)

- 第32条 この法人に、任意の組織構成員として、若干名の評議員を置く。
- 2 評議員は、評議員会を構成し、理事会の諮問に応じ理事長に対し必要と認める事項について助言する。
 - 3 評議員の選任及び解任は、理事会において決議する。
 - 4 評議員の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとし、再任は妨げない。
 - 5 評議員は、無報酬とする。

(評議員会)

- 第33条 評議員会は、毎年度一回開催するほか、必要がある場合に開催する。
- 2 評議員会は、理事会の決議に基づき、理事長が招集する。
 - 3 評議員会の議長は、理事長がこれにあたる。
 - 4 評議員会の議事については、議事録を作成する。議長及び出席した評議員の中から議事録署名人として選任された2名は、議事録に記名・押印する。

第8章 学術講演会

(開催)

- 第34条 この法人は、会員の研究発表等のため、年次講演会を毎年一回開催する。
- 2 前項によるもののほか、理事会の議決を経て必要に応じて学術講演会、研究会等を開催することができる。

(会長)

- 第35条 この法人は年次講演会を主催するために、会長1名を置く。
- 2 会長は、次の職務を行う。
 - (1) 学術講演会を総理する
 - (2) 定時総会の議長を務める
 - (3) 理事長の相談に応じること
 - 3 会長の選任及び解任は、理事会の承認を経て総会において決議する。
 - 4 会長の任期は就任後、次年度の定時総会終結時までとする。
 - 5 会長の報酬は、無報酬とする。

第9章 資産及び会計

(事業年度)

- 第36条 この法人の事業年度は、毎年3月1日に始まり翌年2月末日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

- 第37条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。
- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置きするものとする。

(事業報告及び決算)

- 第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時総会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
 - (2) 事業報告の附属明細書
 - (3) 貸借対照表
 - (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
 - (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
- 2 前項の書類および監査報告を主たる事務所に5年間備え置きするとともに、定款、会員名簿を主たる事務所に備え置きするものとする。

第10章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

- 第39条 この定款は総会の決議によって変更することができる。

(解散)

- 第40条 この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(剰余金の分配の制限)

- 第41条 この法人は、剰余金の分配をすることができない。

(残余財産の帰属)

- 第42条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国もしくは地方公共団体に贈与するものとする。

第11章 事務局

(事務局および職員)

- 第43条 この法人に、この法人の事務を処理するため事務局を設置し、使用人として必要な職員を置くことができる。
- 2 事務局の職員は、理事長が任免する。
 - 3 事務局の職員は有給とし、適切な処遇を行う。

第12章 公告の方法

(公告の方法)

- 第44条 この法人の公告は、官報に掲載する方法により行う。

附則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 この法人の最初の理事長は岩本愛吉とする。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、一般法人の設立の登記を行ったときは、第36条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

平成24年度新任評議員

1. 内田勇二郎 (国家公務員共済組合連合会浜の町病院内科)
2. 三宅 典子 (九州大学病院検査部)
3. 岸 建志 (大分大学医学部内科学第二)
4. 濱砂 良一 (産業医科大学医学部泌尿器科)
5. 河合 泰宏 (川崎医科大学小児科学)
6. 鶴田 良介 (山口大学大学院医学系研究科救急・生体侵襲制御医学分野)
7. 木村聡一郎 (東邦大学医学部微生物・感染症学講座)
8. 川崎 幸彦 (福島県立医科大学附属病院小児科)
9. 嵯峨 知生 (東邦大学医学部微生物・感染症学講座)
10. 藤島清太郎 (慶應義塾大学医学部救急医学)
11. 岩田健太郎 (神戸大学大学院医学研究科感染治療学分野)
12. 大路 剛 (神戸大学医学部感染症内科)
13. 田邊 嘉也 (新潟大学医歯学総合病院感染管理部)
14. 西堀 武明 (長岡赤十字病院内科)
15. 浅井さとみ (東海大学医学部臨床検査医学教室)
16. 大楠 清文 (岐阜大学大学院医学研究科再生分子統御学講座病原体制御学分野)
17. 吉田 弘之 (神戸大学医学部附属病院感染制御部)
18. 大塚 喜人 (亀田総合病院臨床検査科)
19. 永沢 善三 (佐賀大学医学部附属病院検査部)
20. 鯉淵 智彦 (東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科)
21. 吉川 正英 (奈良県立医科大学病原体・感染防御医学教室)
22. 中村 (内山) ふくみ (奈良県立医科大学病原体・感染防御医学／感染症センター)
23. 岸 一馬 (虎の門病院呼吸器センター内科)

平成24年度
物故会員

1. 岡田信一郎 先生 (正会員) (2011年 月 日)
2. 佐藤 周一 先生 (正会員) (2012年 月 日)
3. 中西 全 先生 (正会員) (2012年 1月 日)
4. 岩佐 行泰 先生 (正会員) (2012年 3月11日)
5. 阿部 良行 先生 (正会員) (2012年 3月19日)
6. 福原 資郎 先生 (正会員) (2012年 4月14日)
7. 松田 静治 先生 (名 誉) (2012年 6月15日)
8. 加藤 政仁 先生 (評議員) (2012年 7月 3日)
9. 加治木 章 先生 (正会員) (2012年 8月 6日)
10. 渡邊 一功 先生 (功 勞) (2012年 9月 6日)
11. 松本 誉之 先生 (正会員) (2012年10月21日)